

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0873600589
法人名	有限会社 イケナガ
事業所名	グループホーム はさき寿長生の家
所在地 (電話番号)	茨城県神栖市波崎5560-1 (電話)0479-44-0204

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】(平成19年7月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 24 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	9.95 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	(2回)150 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名		要介護4	4 名		
要介護5	2 名		要支援2		名	
年齢	平均	81 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神栖済生会病院 岩上歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

オーナーが生まれ育ち、両親も地域でお世話になったので地元で感謝の気持ちを込めて開設した、広い敷地に利根川に隣接した平屋建てのゆったりしたホームである。利用者は利根川の川岸を散策し自然を肌を感じるのを楽しみにしている。職員と共に利用者が手入れしている季節の草花が広い庭に綺麗に咲いていて利用者、訪問者にとって温かさや安心感を感じさせる。オーナー、ホーム長、職員共に介護のレベルアップをめざし、かつ、地域に向けて積極的に交流を深めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題として、チームケア会議、定期健診の履歴、ヒヤリハットの記録であったが、朝の申し送り、ミニカンファレンス会議で話し合い改善を行ったことが、管理者、職員の聞き取りから確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価に対する取り組みは、管理者、全職員で共有し積極的に取り組んでいることが、聞き取りから確認できた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催されていない。12月に民生委員が改選されるのでその後、行政2名、民生委員、自治会会長、利用者家族、オーナー、管理者参加のもと開催予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	投書箱の設置、家族への連絡や情報提供は面会時に行っているが、意見を言い出しにくい家族への配慮として、投書箱の設置場所を事務所から見えにくい場所へ移動し又家族会を発足して発言の場を提供されては如何でしょうか？
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は密で地域主催の行事(花火大会、神明神社のお神楽、大潮祭等)に積極的に参加している。地域の子供みこしがホームの庭には歩いてきてくれたり、幼稚園の運動会、お遊戯会へ招待されたりして利用者は心から楽しんでいる。ホーム主催のバーベキュー大会にも地域住民が参加し利用者と共に楽しんでいる様子が伺えた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オーナーの思いを分かりやすい言葉で五つの理念に作り上げている。職員、利用者の笑顔が1番と考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は毎朝ミーティング終了時に唱和して意識付けを行い、理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、町内会に加入し地域活動(神明神社のお祭り、花火大会、子供みこし、大潮祭)に参加、地域住民参加でホーム主催のバーベキュー大会の開催等交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員で評価の意義を理解し、それに向けた会議を数回開催して自己評価に取り組み、日々のケアの見直しが出来た。外部評価については改善点を明確にしケアの向上を促す機会だと捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催されていない。行政の助言により12月の民生委員改選後に行政2名、民生委員、利用者家族、運営者、管理者のメンバーで12月開催にむけ準備中である。		

茨城県 グループホームはさき寿長生の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当課に運営者、管理者共に外向き、相談・アドバイスを受けている。幼稚園との交流で運動会、クリスマス会、お遊戯会に招待され参加し利用者は園児との交流を楽しみにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の状況報告を行うと同時に金銭管理に関しては金銭管理ノートに領収書を添付し、報告を行い、サインをもらっている。年三回のホーム便りの発送の他、状態の変化はその都度電話連絡を行い内容を記録に残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置、契約書にホーム担当以外第三者苦情相談窓口を明記している。面会時に常に声をかけ要望、意見を聞くように心がけている。	○	意見の言い出しにくい家族の配慮として事務所から見えない場所への投書箱の移動、家族会の活用を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来腰痛による離職はあったが、その他職員の離職は少なく、利用者と良好な関係を保っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費、旅費、昼食費はホーム負担、日勤扱いで参加し、研修後は朝のミーティング時に報告を行い資料は申し送りノートと一緒ににおいて皆が目を通す仕組みになっている。	○	受講後の報告が朝のミーティング時のみ、資料に関しては全職員が目を通したかどうか確認されないのでは、全職員の共有内容とし研修報告会を行い、記録に残すことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、小規模多機能ホーム協議会に加入し、運営者、管理者共に交流に努め勉強会等に参加している。市内のホームに交流会を呼びかけているが経営母体が違うため実施にはいたっていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が見学時に昼食と一緒に食べ、職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染める様に努めている。体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から教わる事が多く、料理の準備の工夫、洗濯物をたたむときの注意等指導を受ける事が多くあり職員、利用者とも支えあう関係を自然に築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	図書館、喫茶店、買い物等個々の希望、意向に出来るだけ対応している。 意思表示が困難な利用者に対しては表情から把握に努め本人本位のケアを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の意見、要望を聞いている。 ミニカンファレンスで利用者の状況を確認し問題点をピックアップしケアプランを作成している。	○	カンファレンス会議にて職員の気づきを意見交換し課題とケアのあり方について話し合い、介護計画を作成することが望ましい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化が発生したらその都度話し合い、家族、主治医の意見を聞きながら新たな計画を作成している。	○	ケアプランの見直しの時期などがやや不明確となっている。短期、長期期間、目標、評価をきちんと行い具体的な記載に工夫されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共有型デイサービスの利用、ショートステイで柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は利用者の状況を把握しており、緊急時の対応が得られるように支援している。ホームドクターとして往診に毎月来てくれる医師を確保し、24時間電話での相談も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介助して口からの飲食物の摂取が不可能になった時点を限度としている。家族にもその旨契約時に説明を行い了解を得ている。現時点では無理だが今後、家族、利用者の要望が出た場合、検討はしたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務所にて保管。家族との話し合いは利用者の居室あるいは事務室にて開催。短い昼食の時間ではあったが利用者に頼みごとをする時は、職員のお願ひしますという言葉が度々であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者に合わせて自分のリズムで快適な生活が送れるように支援している。希望がある場合は出来るだけ沿うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食後に翌日の献立を利用者と共に考えている。利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら準備、食事、片付けをしている光景が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は15時30分後ではあるが、毎日入浴可能である。入浴拒否者に関しては時間をおいたり、違う職員が声かけをして2日毎に入浴するように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦の中から手芸(雑巾、袋物)、魚さばき、ボタン付けの位置、庭の手入れ、畑仕事、居室の掃除等、利用者がそれぞれ役割があり楽しみながら生活している。調査時には戦争中の話を得意げにしてくれる利用者の様子が印象にある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買出し、散歩、ドライブ、喫茶店、図書館へと出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでおり、利用者同士が居室を訪問しあったり、庭園を自由に散歩している。近隣の理解を求め声かけ、見守り、連絡の協力も得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導により避難訓練を開催。漏電検査も開催。	○	夜間想定した訓練の開催、消防団のほか地域住民と一緒に避難訓練を開催し災害時の協力体制をとると共に、飲料水、食料品の備蓄に努めることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	正確なカロリーは測っていないが大まかには把握している。食事、水分摂取量を記録にとり利用者の状態把握に努めている。水分量が不足気味の利用者に対しては色々飲み物を変えて提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井で圧迫感はなく気持ちが良い。利用者にとって心地よい共有空間である。庭で咲いた草花がとところどころに飾ってあり季節感をとり入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、座椅子、テーブル、時計、仏壇の設置、家族の写真、趣味の折り紙等をかざり利用者それぞれにとって居心地よく過ごせる居室となっている。		